



編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173 (代) FAX.098-882-5688

✉ o.fukusi@okinawa-j.jp
🌐 <http://www.okinawa-j.jp/>



名護厚生園に春を呼ぶヒメキランソウ



新年度あいさつ

理事長
きんじょう としひこ
金城 敏彦



陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。当事業団の事業運営につきまして、日頃よりご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。現在、急速に進む少子・高齢化・人口減少社会。貧困・ひきこもり、多発する自然災害への対応など福祉ニーズは多様化、複雑化する中で、我が国の社会保障制度を持続可能とするために、包括的な支援体制を整備し『地域共生社会』の実現に向けた取り組みが求められています。

そのような取り巻く環境の変化の中で着実に人材の確保が困難になっていることを実感します。社会福祉法人は事業を通して地域社会に働きかけ貢献することでその存在意義を示すことが前提にあり、法人は社会に対する姿勢として具体的かつ積極的に地域との繋がりを構築し、地域に開かれた法人として認知される必要があります。そのためには法人が地域社会に貢献できる人材を一人でも多く育成することが必要であります。

本年度は、今だからこそ基本に立ち返り人材育成の視点を最重要視し、法人が求める職員像を明確にした『働き方の指針』を全職場、全職員へ周知・浸透・共有を図り確実に実践に取り組んでいきたいと考えております。そのことで、職員が利用者から感謝され、職場から感謝される人材を多く輩出することで職員にとっても職場にとっても、法人にとっても良好な職場環境となり、利用者サービスのさらなる質の向上に繋がると思っております。

皆様には、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度沖縄県社会福祉事業団事業計画

1 利用者に対する姿勢

① 各施設での苦情・要望の内容を月単位で把握し、適切な対応が行われているか点検すると共に、必要に応じ施設協議を行う。また各施設からの情報を取りまとめ全施設へ発信する。

② 虐待防止の観点から利用者の権利擁護に関する研修を本島・宮古・八重山の各地区で開催し、虐待防止の理解と事案を学ぶと共に、身体拘束適正化の概念を再確認し、意識改革を目指す。

③ 各施設の家族会等代表で構成する運営協議会を7月に開催し、家族等の声を聴取し利用者支援及び施設運営に反映させる。

④ 具志川厚生園の複数事業で第三者評価を受審し、評価の高い事項、評価の低い事項を把握すると共に、改善に向けては事務局と施設が情報を共有し具体的な改善策を策定し実施する。

⑤ 沖縄療育園の老朽化による全面改築については、事務局・沖縄療育園の合同改築準備委員会にて家族会の意見を聴取すると共に、関係機関との調整を行い整備基本計画作成に着手する。

2 社会に対する姿勢

① 法人全体の地域における公益的取組等を整理し、それらが地域の援助ニーズ

とマッチしているか確認すると共に、新たな取り組みも検討する。② 法人は、(ア)児童養護施設卒園児の就職・進学に係る社会的自立の支援 (イ)生活困窮世帯児童の学習支援 (ウ)地域住民向け「こころの学校」を開催する。

3 人材に対する姿勢

① 働き方の指針で示した管理職像を事務分掌でも明確にし、組織が目指すもの・価値観・存在意義が明記された経営理念等を職員に周知徹底する。

② 同職種・異職種の職員の連携を図り良好な人間関係の職場を構築・維持のため、接遇・職業倫理研修を導入し、各施設での振り返りを重ねより良い職場環境を構築する。

③ 昨年度から実施した新規高卒者の雇入を継続すると共に、法人全体・各施設に係る外部環境・内部環境の分析を強化し、直接の介護業務以外で生活を支援する職員の確保に取り組みと共に、働き方改革とも合致した雇用形態を構築する。

④ パワーハラスメント・セクシャルハラスメント等の防止策、対応策を適切に講じるため管理職研修を実施する。

4 マネジメントに対する姿勢

① 社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止等の適切な理解を促進するため職場内勉強会を実施し、遵守の重要性を啓発する。

② 監事及び事務局は、事務局・全施設を対象とした内部監査を行い業務執行機能の強化を図る。

③ 各施設担当理事を中心とした施設種別会議、経営対策監会議・実績会議等を開催する。

④ 適切な収益の確保に向け、既存事業

の収支に関する課題の解決、新規事業検討など将来を見通した事業運営を行う。課題解決に向けた取組強化が必要な事業等は次の通り。ア名護・具志川・宮古・八重山厚生園の養護老人ホーム イ具志川厚生園通所介護事業 ウ八重山厚生園訪問介護事業・居宅介護支援事業 エ北嶺学園居宅介護事業 オあけぼの学園知的障害児事業 カ都屋の里入所支援・生活介護事業

⑤ 会計責任者及び出納職員が、社会福祉法人会計基準に関する必要かつ十分な知識を有するよう研修を実施する。

令和2年度 資金収支予算書

平成31年3月31日現在

(単位:千円)

勘定科目		法人全体		
		当年度 予算額 ①	前年度 予算額 ②	増減 ①-②
大区				
事業活動収支	収入 事業活動収入	4,366,296	4,302,436	63,860
	支出 事業活動支出	4,315,017	4,311,372	3,645
	事業活動資金収支差額	51,279	△ 8,936	60,215
施設整備等収支	収入 施設整備等収入	0	3,620	△ 3,620
	支出 施設整備等支出	95,480	46,876	48,604
	施設整備等資金収支差額	△ 95,480	△ 43,256	△ 52,224
その他の活動収支	収入 その他の活動収入	313,754	436,272	△ 122,518
	支出 その他の活動支出	290,917	389,690	△ 98,773
	その他の活動資金収支差額	22,837	46,582	△ 23,745
予備費		49,500	0	49,500
当期資金収支差額		△ 70,864	△ 5,610	△ 65,254
前期末支払資金残高		963,367	968,977	△ 5,610
当期末支払資金残高		892,503	963,367	△ 70,864



令和元年度 実践活動発表会(報告)

令和2年2月7日(金) 沖縄県総合福祉センターゆいホールにおいて、日頃の施設での実践の成果を発表する事で職員の創意工夫力を高めることを目的に「令和元年度 沖縄県社会福祉事業団実践活動発表会」を開催いたしました。今年度は平成30年4月に開園したにしのもり保育園の発表が加わり、5施設が発表を行いました。

【発表内容】

- 北嶺学園 相談支援事業所ほぐれい
「相談支援から広がる利用者支援について」
- よみたん救護園
「身体を動かす活動を取り入れ、活動性維持への取り組み」
- うるま婦人寮
「うるま婦人寮における『うるま妊婦』『特定妊婦』の支援について」
- 具志川厚生園
「他職種協働
自然な排便の獲得
～マイナス3日の壁を超えよう～」
- にしのもり保育園
「主体的な子どもを育む保育
～サービス提供方針から～」

特別講演には金城隆展氏(琉球大学医学部付属病院地域医療部臨床倫理士)をお迎えし、『「利用者」の尊厳を守る』とは何かを考える』のテーマでご講演いただきました。

参加者からは、「第一にまず、立ち止まること。初心に戻り支援していきたい。」「自分が変わる覚悟で利用者に向き合う、自分に向き合うこと。今日から取り組んでいきたい。」等、感想が寄せられました。日々過ぎていく施設での利用者支援に慣れが生じ、「なにかおかしい」「もやもや感」を感じなくなっていないか、倫理的选择ができていないか、参加職員が自分自身について振り返るきっかけとなりました。



実践発表を終えて



にしのもり保育園
保育士
はまさき るみ
濱崎 留美

「主体的な子どもを育む保育、サービス提供方針から」をテーマに、リーダーを中心に、6名の構成員で実践報告会に向けて取り組んできました。

「私たちこんな保育をします」の一つ一つの実践の中から、発表時間の20分で報告できるよう具体的に様子がわかる写真を選び出し、何度も修正や訂正を行い、発表の仕方などを、構成員との連携や協力のもと調整し、発表の日を迎えることができました。

何よりも心強かったのは、園長から発表内容のアドバイスを頂いたことや、同じ発表者の島尻と、何度も練習を行い、お互いの発表する部分を確認し、息を合わせる事ができたことです。初めての発表でとても緊張しましたが、制限時間内で発表することができ、他の施設の方々からも、「子ども達の笑顔に癒されました」と感想を頂き、発表することができて安心しました。

また、他施設の発表を聞くことができ、利用者支援やサービス改善に努力をしていることが伺え、とても勉強になりました。

実践活動発表会へ参加して



よみたん救護園
介護員
みやざき けんいち
宮里 憲一

よみたん救護園では、近年、高齢化に伴い歩行レベル(ADL)低下にて転倒リスクが高まっています。

実践活動発表を通して、利用者の健康維持を図りながら日課活動を工夫したり、見直すことで手芸・書道からズンバ・介護レクへ変更し発表に向けて万歩計を使用し、活動性・ADL維持へ繋がりたい思いから取り組んできました。

結果、数値として効果は確認できませんでしたが、ズンバでは利用者の笑顔や自由に体を使い表現する様子が見られ、活動に対して取り組んで良かったと感じます。

発表を終えて他職種の意見や懇親会での評議員のアドバイスがあり、改めて施設の課題を把握しながら新しい事にチャレンジし、これからもより良い利用者支援へ繋げて頑張っていけたらと思えました。



退園後のアフターケアを行うにあたっての 退園児の様子と取組について

漲水学園
保育士

荷川取 律子



弥生3月卒業・嬉しくもあり淋しい気持ちになる季節になりますが、当学園では、更に大きな不安を抱えながら退園する児童の姿があります。

近年、様々な特性を持った子ども達が増えている状況の中で、職員は我が子同様に日々見守り支援していますが、この時期は特に子ども達が、安心・安全な生活ができるよう社会的自立の為に、より多くの支援が必要と考えます。

その一つの方法として「アフターケア」事業に取り組み、職員が寄り添い退園する児童の不安材料を、少しでも減らすことを目的としています。

現在、県内外へ進学・就職した子ども達をサポートしていますが、当学園から大学進学、専門学校に進んだ児童の入学式、卒業式への参加、就職先への挨拶ができた時は、親代わりとして感無量だった事を今でも心の記憶として残っています。

人と関わるのが得意な退園児童と会う事は、とても重要な役割を担っている

と強く感じます。別れ際に「また会いに来てほしい」との言葉を聞く度に、家族の後ろ盾も無く、人と関わるのが難しい児童にとって、アフターケア事業がある事で子ども達の不安も軽減でき大切な一時となっていることを実感します。

当学園では、法人の公益的取組の一環として、退園児童に対し安心して、大学や専門学校進学に際して必要な学資等の支援が安定的に継続可能となるよう法人組織全体の取組みが進められており、更には退園児童の支援を目的とした「チャリティゴルフ」を毎年開催し、地域の方々の暖かい御支援で子ども達をサポートしています。このような支援のおかげで、今年も無事専門学校を卒業、作業療法士の国家試験に合格し病院勤務が内定したとの嬉しい報告が届いています。

この様な退園児童が社会的自立に頑張っている姿に職員一同大変喜んでいきます。

最後に
全ての子供たちに
幸あれと
願いを込めて



厚生園PT・OT連絡会

名護厚生園
理学療法士

照屋 裕士



厚生園PT・OT連絡会は今年で2回目の開催となります。1月に行われた連絡会は前年度よりもまして、積極的な熱意ある話し合いとなりました。

連絡会では、各施設の取り組みや機能訓練の実施状況等を情報交換・共有を主に行っています。各施設のPT・OTが創意工夫している事、知識や情報を共有する事で、利用者へのサービスの質の向上に努めています。また、職種ならではの戸惑いや悩み等も相談・共感する事で、自分自身の見直しもする事ができ、明日からの業務も前向きになれている気がします。今後の連絡会では、リハビリ専門職の知識や経験を福祉用具・介護ロボットの活用・普及に活かすような取り組みがしたいとの声も上がっており、利用者の動作が安楽・安全に行える事はもちろん、介護者の介護負担を軽減する事も視野にいたれたディスカッションが出来たらと思っています。

利用者のその人らしい暮らし『自律した生活』を送れるように、4厚生園互いに協力して精進していきます。

栄養士連絡会

宮古厚生園
管理栄養士

奥平 優佳



2月14日第3回栄養士連絡会議が開催されました。利用者に満足してもらえるサービスを行う事を目的として、利用者の食事提供の在り方や衛生管理等様々な分野を協議、また専門の講師を招聘し研修会を行う等、年3回実施しています。

今回は食品衛生法改正に伴い、義務化される「HACCP」について講師を招聘し研修会を行いました。HACCPとはHazard Analysis (分析) Critical Control Point (重要) Control (管理) Points (点)の頭文字からなります。調理する際にどんな危害があるのか予め分析し、対策を立て、重要ポイントを継続的に管理、記録し書類を保存します。HACCP制度が完全施行される令和3年6月までに、現在行っている一般衛生管理を土台にし、HACCPの考え方に沿った衛生管理を行う必要があります。今後、各施設の栄養士と情報共有し、委託業者と連携を図り、利用者安心・安全な食事を提供できるように努めて行きたいと思えます。

事業所紹介

「地域で暮らす」を支援する

いしみね救護園の取組

いしみね救護園
管理課長

なかむら あゆみ
中村 亜由美

「その人らしい豊かな生活の途中に支援がある。」

救護園は、「身体上又は精神上著しい障害があるために日常生活を営むことが困難な要保護者を入所させて、生活扶助を行うこと」を目的とする施設です。



他法他施策での対応が困難な方（重複障害等）の受け入れ、緊急に受け入れが求められる方、精神障害者の社会的入院の解消など、その時々ニーズに対応しています。

『10年かかったけど、食堂のランチが食べられて幸せです』

去年、入所者がグループホームへチャレンジし、「いまの季節はカツ丼が美味しい」と心弾む季節をアパートで迎えられました。

いしみね救護園は従来からの生活扶助を行うことを目的とする入所機能にとどまるだけでなく、自立支援を行うことを目的とする両輪の機能へゆっくりに進んでいます。

支援は、入所者の要望に沿った計画や実践を進めていく必要があります。全国救護施設協議会とともに個別支援計画書の作成に取り組んでいます。内容は、救護施設に継続入所が多いもの、介護保険施設や他の障がい者施設、単身アパート・家族との同居等、ご本人の希望を反映したものになります。

就労や日中活動の面からも、ステップアップを図ることを目標にしていますが、現状では、入所施設内で受けるサービスの利用が中心となっています。その他に、一般就労へのチャレンジや障害福祉サービス、デイケアや重度認知症デイケア等も利用しています。

全国救護施設協議会が実施した実態調査によると、全国で1万6千人余りの方々が入所しており、入所期間は10年以上20年未満が最多で、30年以上、20年以上30年未満と続きます。

その人らしい豊かな生活。これほど待ち遠しく思うことを、願わずにいられません。

2019年度 教材DVDライブラリーの 活用状況について

視覚教材の導入により、職員の研修ニーズに細やかに対応し、人材育成の環境を整えることを目的に平成30年5月に法人本部は「教材DVDライブラリー」を創設しました。2年目を迎えた2019年度においては25件の利用がありました。利用した施設からは「簡潔でわかりやすく、施設内研修に活用しやすい」との声がありました。

また、利用ニーズとしては「法令等に基づいて施設が実施すべき研修内容に活用できるDVDがあるといい」等の声もあったことから、令和2年度においては、利用ニーズに合わせたDVDを新たに取入れていく予定であります。

(事務局)



～退職者あいさつ～



事務局
経営管理課長

おなが
たけみ
翁長 武己

事業団が自主経営に移行した平成18年6月に採用され事業団事務局出納員としての勤務が始まりました。

施設出納員の大半は、平成18年4月採用で会計業務も初めての職員が多く、「補正予算・決算」の取りまとめに苦労した思いがあります。

施設事業が増えるのに伴い、事務局体制も会計業務を担当する経営管理課が新設され3名の職員が配置され、現在に至ることも大きな出来事でした。

退職を迎えるに当たり、多くの同僚からの協力に支えられ、充実した日々を送ることができました。感謝で一杯です。

最後になりましたが、事業団の更なる発展と、皆様方のご活躍・ご健康を祈念申し上げます。に、定年後の再雇用となりますので、これからも宜しくお願いします。



宮古厚生園
介護員

なかま
かつゆき
仲間 勝之

まさに『光陰矢の如し』あつという間に34年9ヶ月が経過しました。

期待と不安を胸に漲水学園に赴任した時の情景が、懐かしく思い出されます。

その後、あけぼの学園・宮古厚生園でも勤務させていただきました。

各施設では、利用者のサポートを念頭に置いて業務に当たりましたが、むしろ私の方が成長させてもらったように思います。



北嶺学園
生活支援員

まちだ
むねひろ
町田 宗広

行く先々の職場で多くの職員に支えられて、無事に定年を迎えられたことに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

定年後は、当園で再雇用させてもらうことになり、もう暫く頑張ろうと思えますので、今後とも宜しくお願い致します。

この度、北嶺学園にて退職する事になりました。昭和57年12月沖縄療育園へ採用され都屋の里、よみたん救護園、あけぼの学園等々、8施設で勤務(9回の異動)し、37年4ヶ月間勤務しました。全ての施設に於いて気の抜けない業務でしたが、今では良き思い出として残っています。

そのような中、完全民営化という大きな変革を強いられた平成18年度は、いしみな救護園へ異動した年であり、全職員が自分たちの職場を守るため必死に働き、半年ほどは職員の笑い声は殆ど聞こえなかった事を覚えています。

最後に、これまで多くの同僚に支えられてここまで務める事が出来ました。誠に有難う御座いました。そして、在職者の皆さんのご健康とご活躍を祈念致します。



都屋の里
介護員

うんてん
ひろあき
運天 弘章

私は平成5年に採用年齢制限ギリギリの30代半ばで運よく採用となり県立名護厚生園の福祉現業員(調理師)としてスタートし都屋の里、沖縄療育園、よみたん救護園、再度、都屋の里と各施設

を勤務してきました。厨房職員、介護員として各施設の利用者とのふれあい、先輩職員の激励、同僚に支えられて26年間勤め上げることができました。途中、福祉事業団の民営化、合理化に伴う職種変更等、時代のうねりもありましたが、平成の終焉と共に無事に定年退職出来る事を嬉しく思います。

お世話になりました各施設の利用者の皆さん、職員の皆さんありがとうございました。



いしみな救護園
介護員

おおしろ
ひでお
大城 秀夫

昭和57年に福祉事業団へ採用、7回の人事異動もあり37年間努めることができました。転勤先での同僚や先輩職員にも恵まれ地域の人達との出会いもあり、今まで有意義に勤務する事が出来ました、自分にとっての財産になり大変お世話になりました。

再雇用の形でこれからも事業団にお世話になりますが、自分の出来る範囲で力を発揮し活かせるよう微力ながらこれからの事業団のために頑張っていきたいと思えます。

利用者、職員の今後の幸せと健康をお祈り申し上げます。



～退職者あいさつ～



沖繩療育園
看護師

おくま
なほみ
奥間 直美

沖繩療育園に勤めて16年になりました。長いプランクからの現場復帰と施設での勤務は初めてということもあり、最初の頃は不安と緊張の日々でしたが、諸先輩、同僚に支えられこれまで続けていくことができました。

又、活動や訓練などで健気に頑張る利用者様の姿、時折みせる笑顔、そして御家族の深い愛情に勇気と感動をもらい、私にとって大きな財産になりました。

今年、人生の節目となる定年退職を無事迎えることができましたこと、心より感謝いたします。ありがとうございます。

今年度、再雇用させていただくことになり、また初心に戻り微力ながらこれからは頑張ります。スタッフの皆様、利用者の皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。

最後に、事業団のさらなる発展と皆様のご健勝を記念申し上げます。



八重山厚生園
介護員

がなほ
みほこ
我那覇 美穂子

八重山厚生園に入職し気が付くと早15年の月日が流れ退職を迎える事が出来シカイトウミーハイユウ。(有難うございました)
介護の事が何も分らなかった私に多くの経験をさせて頂き育てられました。

その中でも利用者の皆さんと一緒にビニール紐で獅子を作り、旗頭を作り納涼祭で披露した時の利用者さんの笑顔が一番の思い出です。



宮古厚生園
准看護師
デイサービス

とりうら
みつ
鳥海 みつ

これからも、利用者の皆さんと沢山の楽しい時を過ごせるように仕事を続けて参ります。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2年間という短い期間ではありましたがデイサービスのスタッフと一緒に仕事が出来て幸せでした。初めてのデイサービスの仕事でとまどいもありましたが楽しく仕事が出来たことに感謝しています。

利用者に「貴方がいると安心するのよ」と言われてとても嬉しかった事もありました。宮古厚生園での忘年会。生まれて初めての余興は皆さんの足も引っぱたりもしましたがすごく楽しく一生の思い出です。

そして、他部署の皆様にも温かい言葉も掛けていただき今日まで勤務出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り致します。



よみたん救護園
看護師

よぎ
きみえ
与儀 貴美枝

入職して2年余り、短い期間ではありましたが、本年度をもちまして定年を迎えることとなりました。これまでの殆どが病院での勤務で救護施設での勤務は初めての経験で戸惑うことも多々ありました。看護師としての利用者の健康管理や受診対応などの業務に関して、同職種や他スタッフの方々からの情報提供やご協力のおかげで何とか務

めることが出来ました。本当にありがとうございます。また、園行事等に参加することによって社会との繋がりを体験できいい思い出です。今までもありがとうございます。



あけぼの学園
管理課長

かわね
なほみ
川根 直美

昭和58年11月に事業団に採用となつてからは36年。

あけぼの学園で26年、宮古厚生園で10年、それぞれの勤務先で多くの職員との出逢い、多くの利用者との出逢い、ふれあい、幾度かの戸惑い、喜びあり、笑いあり、涙ありの現場での有意義な交流、最後の6年間は職員をまとめる課長職として多忙な中で取り組んだ新規事業、人事考課、ICT事業等の新しい取り組みでの職員と共に奮闘した日々、長かったような短かったような36年間の思い出。その思い出のひとつひとつの「一期一会」が勤めを離れるとなると感慨深く思い出されます。

退職にあたり、一生懸命だけが取りえの不器用な私を今日まで支えてくださった上司、諸先輩方、現場の職員や周囲の職員へ心から感謝申し上げます。これから福祉サービス・働き方も多様化の時代をむかえる中、今後の事業団の益々のご検討をお祈りいたします。

令和2年度
人事異動

北嶺学園 園長
宮城朝雄
(新規)
あけぼの学園 管理課長
佐久田政幸
(あけぼの学園生活支援員相談支援専門員)



事務員の業務改善に向けた取り組み状況

給与・庶務担当事務員業務について

沖繩療育園
管理課長

又吉雄洋
またよし たけひろ



2019年4月1日からスタートした「働き方改革関連法」の施行に伴い、当法人でも時間外勤務の縮減や年次有給休暇の取得しやすい環境作り等の取り組みを進めています。給与・庶務担当事務員の業務改善についてもその一環として法人としてチームを編成し、進めているところです。

そのひとつとして、令和2年2月及び4月において「社会保険の法人単位取得への変更」を行いました。それによりこれまで行っていた人事異動の際の社会保険の資格喪失及び取得についての手続きが不要となり事務員業務の軽減に繋がりました。

そして現在は「簿冊の廃止」に向けて取り組みを進めているところであり、簿冊廃止時における業務軽減効果は大きいことから早めの実施に向けて進めていきたいと思っています。簿冊廃止となった際は各職員がパソコン上で時間外勤務や年休取得等の申請を行うこととなります。今後も職員の働きやすい環境を整えて行けるよう、業務改善に取り組んでいきます。

出納担当事務員業務について

具志川厚生園
管理課長

中本信次
なかもと しんじ



2019年4月から働き方改革関連法が施行されました。これを受け当法人は各職種の業務見直しの先駆けとして事務員（会計・給与・庶務）の業務見直しを図ることとなり、昨年6月に会計業務改善チームが編成され、約半年間業務改善に向け取り組んでまいりました。

まず初めにスケジュール表を作成し、ゴールを明確にしたうえで、チーム員と共に業務内容を徹底的に洗い出し、必要な業務と不要な業務を選び分け、やるべき業務の効率を高めることを意識して取り組んでまいりました。その一つとして当法人監事のアドバイスを基に会計システムの改良を行い、未払い金の管理（計上から支払いに至る一連の流れ）において大幅な時間の短縮を図りました。また、インターネットバンキングを導入することにより、銀行の往復に費やす時間を削減致しました。

これらの取り組みにより会計担当事務員の時間外労働が縮減され、ワークライフバランスの更なる充実に繋がることを願っています。

新型コロナウイルス
感染予防について

2020年1月には日本でも新型コロナウイルス感染症が報告されました。その後世界各地へと感染が広がっており、国内でも感染経路が特定できない患者さんが多くみられる状況となっています。2020年3月には、国内の福祉施設の利用者の感染報告もあり、当法人の各事業所も厚生労働省等の通知をはじめ情報を収集しながら感染症対策を行っております。

特に高齢者や糖尿病、高血圧、ぜん息などの持病のある方は重症化しやすいという報告もあり、高齢者の施設はもちろんのこと、その他児童施設、障害者施設等集団生活を営んでいる施設内にウイルスを持ち込ま

ないよう、職員が自らの感染を防ぐことが重要課題であると捉え、各事業所の対策に加え、3月18日には理事長より職員通知を行いました。

感染機会を減らすために密閉された空間や人が密に集まるような場所への出入りを避けること、職員自身の衛生行動を徹底すること、感染の早期自覚については、具体的なフロー図を示し、症状がある場合は施設長へ申し出ること、医療機関を直接受診することは避け、かかりつけ医や地域の保健所に相談する等の周知を図りました。

国内の終息に向けた見通しがまだ立ちにくい状況ですが、職員一人一人が適切な感染予防に努めていけるよう、最新の情報共有を図りながらこれからも対応していきたいと思っております。（事務局）

有限会社オキツウ様より
ご寄付いただきました

2月17日、有限会社オキツウ様（奥平博明 代表取締役）より、会社設立30周年記念として200,000円のご寄付を頂きました。

有限会社オキツウ様へ心より感謝申し上げます。

